

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

親政クラブ 和田一繁・林利幸・疋田菜穂子・馬場和子

（一社）埼玉県ラグビーフットボール協会 事務局 五十嵐 健介氏（県職員）

(1) 実施日：令和 5 年 10 月 23 日（月曜日）午後 13 時 00 分～15 時 15 分

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

2025 年滋賀県で第 79 回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（以下国スポ・障スポ表記）が開催されます。メインスタジアムを構える本市におきましては、開閉会式、陸上競技、ハンドボール、弓道、なぎなたの競技が行われる。

(2) 本市における課題

2025 年平和堂 HATO スタジアムをメインとした彦根市総合運動場の国スポ・障スポの開催までの準備ならび大会終了後の有効的な活用、取組について

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目 『スポーツ観光都市熊谷における官民連携の取組み』

(2) 選定地 1： 埼玉県熊谷市：県営熊谷スポーツ文化公園内「さくらオーバルフォート」ならびホテル「パークウィング」

【3. 調査結果】

(1) 内 容

「さくらオーバルフォート」は 2019 年ラグビーW杯に合わせてリニューアルされた熊谷スポーツ文化公園内にあります。公園全体の利便性向上やラグビー振興等を目的に、2019 年 3 月に熊谷市と埼玉県、パナソニックの三者にて民間施設整備の協定を締結し完成したのがラグビーパーク「さくらオーバルフォート」です。公園内（一部）への施設設置とエリア全体の管理は、埼玉県から許可を受けて埼玉県ラグビーフットボール協会が行っている。管理棟や屋内運動場、宿泊棟（パークウィング）の建設は埼玉県ラグビーフットボール協会からパナソニックホームズが請け負いました。トップリーグの強豪チーム「埼玉パナソニックワイルドナイツ」が本拠地を群馬県太田市から熊谷市に移転しています。

・施設概要

さくらオーバルフォートは熊谷駅からバスや車で 15 分ほどの場所で、熊谷ラグビー場のすぐ側にあります。敷地面積は約 3 万 388 平方メートル（9, 201. 5 坪）。グラウンドを囲むようにして、最大 264 名宿泊できるホテル「パークウィング」があり、ラグビー

だけでなくさまざまな競技の合宿や国内、国際試合、プロスポーツなど宿泊に対応できる施設として利用されています。「ワイルドナイツサイクルステーション&カフェ&ラボスペース」や整形外科「スポーツクリニック」などこの施設が世界に発信できるラグビーパークとなっています。

特にさくらオーバルフォート内にある熊谷スポーツホテル「パークウィング」は4階建て204室で、目の前がラグビー場という絶好のビュー。ゴールポストが目の前であり実際に選手の皆さんが練習しているところを部屋から見るができる施設です。利用者の多くはスポーツ団体の利用で、ラグビーはもちろん陸上関係者やサッカー関係者も利用されています。用途に合わせてリーズナブルなボックスベッドから最上階のスイートルームまで、幅広い部屋があり、学生の団体や家族連れなどさまざまな層が宿泊できるようになっています。広々としたサウナ付きのスパは、日帰り入浴も可能です。カフェで一休みしたり、テラスでBBQを楽しんだり、研修などで使える多目的ホールもあるので、ビジネスでの利用もあります。

(2) 考 察

2019年ラグビーW杯で盛り上がった熱量を継続すべく、大会終了後の施設を含めた活用方法を学びました。スポーツチーム、行政と連携を取り、ただ試合を見に来るだけではなく、埼玉パナソニックワイルドナイツの選手の練習風景をファンや地元の家族連れが見学ゾーンで見られたり、BBQをしながら家族、友人と練習を見られたりファンやサポーターに感動を与えるような仕組み作りをされておられます。また地域や商工会議所の皆さんとも連携を密にされています。熊谷商工会議所は、地域を活性化するために、パナソニックの電動アシスト自転車を100台導入し、シェアサイクルの運営を始め、熊谷駅から会場までサイクルで移動などラグビータウンとして熊谷市の魅力を発信されています。まさにこのエリアはラグビーを柱に「スポーツをする、観る」「食べる」「買う」「集う」「学ぶ」「想像する」「泊まる」活気と賑わいをもたらすレジャー施設として様々な方々も楽しめる施設でありました。ホテルは利用される用途によって選択できる素晴らしい施設であり2025年国スポ、障スポの課題のひとつである宿泊施設不足解決のヒントにもなりました。

彦根市総合運動場を市民が集え、楽しめ、愛される居場所とするためには、ハード面の整備の他、市民がスポーツを通じてシビックプライドを醸成したり、健康増進を図れる仕掛けづくり等が必要となってきますが、それには行政、民間との連携が不可欠であると再認識しました。

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

親政クラブ 和田一繁、馬場和子、林利幸、疋田菜穂子

(2) とき・ところ

令和5年10月24日火曜日 午前10時～12時 熱海市役所

(3) 担当者

観光建設部 次長

立見修司 氏

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

彦根城、および商店街等の観光資源があり、宿泊を伴う観光客の増加に取り組んでいる。

(2) 本市における課題

市、観光協会、商工会議所など関係各所での連携が不十分である。

観光客の市内交通手段整備が不十分である。

SNS等を用いた情報発信を十分に行えていない。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

熱海市における観光政策について調査

(2) 選定地

熱海市

【3. 調査結果】

(1) 内 容

従来熱海においては観光による収益が高かったが、徐々にその規模が縮小していた。この際に、熱海市においてはターゲットの変更、プロモーション戦略の変更によって対策を行った。具体的には、従来中高年齢層がボリュームゾーンであったところ、若年層をターゲットに据え、プロモーション戦略として、メディアを利用した。特に、メディアでのプロモーション戦略において、東京近郊であることを生かし、専従の職員を配置し、番組制作側へのアプローチを強化したことは効果的であった。さらに、若年層へのアプローチにおいては、SNSを活用し、温泉以外の目玉の創出に成功した。

これら一連の政策においては、各種データを精緻に分析し、市の強みを的確に把握したうえで、整理、再構築した。

また、民間を巻き込むことに成功し、真に官民一体での街づくりを行うことができた。

(2) 考 察

全体として、熱海市における観光政策が軌道に乗った要点としては、3点あげられると考えられる。即ち、1、市内における観光政策に対して、データ、数値を精査し一つ一つ丁寧に理屈を重ねたこと。2、そのうえで、目指すべき方向性を適切に設定し、効

果的な政策を打ち出したこと。3、民間との協力関係を構築したこと。である。

以上のように仮定した場合、彦根市における現状としては特に3の部分に問題を抱えているものと想像できる。

民間との協働を図る場合、民間において、観光客の増加が増収増益につながるということについて、数値や理論のうえでなく、肌感覚レベルで感じられることがなければ積極的な協力体制というところまで発展していかないのではないかと考えられる。

そしてまた、上記のような経済的な効果の実感のほかにも、事業を営まない市民レベルにおいては、観光客により市民生活に支障が出ないようなハード、ソフト両面での整備がなければ、市民全体にまで観光への積極的な協力という雰囲気の醸成は難しいのではないかと考えられる。

さらに、彦根市においては、現状映画やドラマ等の舞台としてのブランディングを推進しているところであるが、熱海市の事例における、映画ドラマの誘致から、情報番組の誘致へと舵を切って効果を上げている点につき大変参考になるものであると考えられる。

最後に、観光政策については、何か一つを伸ばすということではなく、全体としてバランスよく整備していくことにより好循環を生み出す性質を有しているということも、再確認することができる。従って、当然のことながら彦根市であれば彦根城にフォーカスされることが多い中で、彦根城のみに頼らない観光政策というものの重要性を示唆しているのではないかと考えた。

熱海市と彦根市は諸条件において共通する部分が多くあり、参照できる事例として非常に有益であった。

報告者 疋田菜穂子